松田町無形文化財 大名行列の歴史

松田の「奴振り」は小田原藩主大久保氏のもの

明治4年（1871）廃藩置県により、旧藩主は華族に列せられ、東京に移住させられました。小田原藩の大久保の殿様が東京に移られるときに、松田の人が「いつもやっていた奴振りの型を引きついで寒田神社の行列に組み入れ後世まで残したいのでお許し願いたい」と申し入れ、お認めいただいたのが奴振りの始まりといわれています。そして小田原の板橋から師匠を呼んで技を習得したとのことです。

明治8年（1875）に寒田神社の行列の中に奴振りが組み込まれましたが、すぐに中止になってしまいました。その理由は江戸時代の道具をそのままいただいたので、傷んでいて使い物にならなくなってしまったからだそうです。

※小田原藩は、廃藩置県前には神奈川県西部と静岡県東部（伊豆地方）に相当する領土を治めていた藩

大名行列の復活

明治34年（1901）旧東海道本線（現在の御殿場線）国府津～山北間の複線化を祝して、東海道線複線化祝賀会が国府津の浜で行われ、その出し物に松田駅保線区の人たちが奴振りを披露して大変な評判となりました。

しかし道具は、セメント樽を先箱にしたり、毛槍は測量棒を代用したとのことです。

この評判を聞いた松田の人たちは、これをきっかけに道具を新調し、本格的に奴振りが寒田神社の行列に入り、脚光を浴びるようになりました。

▲戦前(昭和10年頃)の大名行列

赤坂奴とは

松田の大名行列の奴振りを「赤坂奴」と呼びます。

江戸時代、大名行列が参勤交代や上洛する場合、公式の行列を組み、要所要所で奴振りをしました（長い道中のすべてで奴振りをしたわけではありません）。しかし経費の関係かどうかわかりませんが、どの大名も常雇いの奴振りをする人たちを連れていかず、奴振りをしなければならない時だけ、日当を払ってさせていたそうです。

この奴をする人たちを集める人足（ひといれ）稼業（現在の人材派遣業）の親方が赤坂というところに住んでいたので、奴をする人たちを「赤坂奴」と呼ぶようになったそうです。

陰陽天地人三歳七五三の「奴振り」とは

ここでは大名行列の「掛け声」、「動作」について解説します。

まずは「掛け声」です。タイトルにもある通り、松田の大名行列は「陰陽天地人三歳七五三の奴振り」といいます。

この「七五三」とは「掛け声」を現わしており、お弓係の「ヒーハーヒー」の三語、先箱係の「エーヤットマカセ」エーは掛け声ですので「ヤットマカセ」の五語、毛槍係の「ヨーイヨイヤサッササ」が七語。この三種類の掛け声が繰り返されることを示しています。

この掛け声の意味ですが、お弓係の「ヒーハーヒー」は「下に下に」と同じ意味にあたります。つまり「下に居よ」という意味であり、行列の先頭を行く武士が、庶民に土下座をするように促した言葉です。これにより、お弓係だけは武士であるということが分かります。

次に「エーヤットマカセ」ですが「エー」は気合いを入れる言葉で残りが五語になります。「ヤット」も、力を入れるときに発する言葉で、そこに「任す」の命令形「マカセ」をつけた言葉です。

最後に「ヨーイヨイヤサッササ」の意味ですが、こちらについては語源・意味等については不明でした。しかし、日本では類似の「エンヤサノサッサ」という言葉が使われている行事が存在しました。

島根県松江市・大分県豊後高田市・広島県尾道市で行われている「ホーランエンヤ」という航海の安全と豊漁を祈願する行事です。そのうち島根県松江市のものは日本三大神事の一つに位置づけられるほどの行事です。

しかし、どの地域に確認をとっても、やはりこちらの意味については不明であり、いずれも「勢いをつける掛け声の様なもので、意味はないのではないか。」とのことでした。

続いて「動作」の「陰陽」「天地人三歳」についてです。

これは動作一つ一つにそれぞれ「陰」「陽」「天」「地」「人」の意味が込められた動作となっていることを現わします。

「陰陽」は、すべての事物には「陰」と「陽」の面が存在するということを現わし、「天地人三歳」は、天（霊的世界）・地（現実的世界）・人（精神的世界）の三歳を現わします。これはすなわち宇宙全てのものという意味で、人間が生きているこの世界は三つの世界から成り立つという古代中国の「天地人三歳思想」という考え方からきたものです。

この様に、「掛け声」や「動作」の意味を理解すると、また大名行列を違った観点から見ることが出来るかもしれません。

▲武士のお弓係を先頭に進む大名行列（昭和50年）

松田から箱根へ

全国的に有名な箱根の大名行列（奴振り）は、松田町が教えたものだとよく言われていますが、それは本当なのでしょうか。

大正12年（1923）箱根も松田も関東大震災で激甚な被害を受けました。

特に箱根はすでに観光地でしたので、その影響は大変大きなものでした。

そこで新しく人を呼び込み、さらに箱根が復旧したことをPRするにはどうすれば良いかと考えた結果、箱根の街道に大名行列を練り歩かせようということになりました。

その指導に松田の奴振りの副師匠が当たったとのことです。

昭和10年（1935）には箱根観光博覧会が開催され、その呼びものとして大名行列が行われました。これが本格的な箱根大名行列のスタートだと言われています。

松田から全国へ

平成の初め、北海道美幌町端治地区に「足柄奴」というものがあるという情報が入りました。

「足柄奴」を追っていきますと、松田町の奴振りがいつの時代か（推定は明治時代）函館の神社に伝わり、名を変え美幌町に伝わったことが分かりました。

これを縁に平成3年より美幌町と松田町の交流が始まりました。

平成8、9年には美幌ふるさとまつりに参加し、松田の奴振りを披露しました。

またその後、美幌町の小学生が来町し、奴振りを学んだり「足柄奴」保存会の人たちが「まつだ観光まつり」を視察したりしました。

現在では交流は少なくなりましたが、まつだ産業まつりで人気のある「美幌のじゃがいも」は美幌町の協力で送られてくるものです。

この他にも、近年では東京都港区の「港区民まつり」や山形県河北町の「谷地どんが祭り」に招待され、全国各地で松田の大名行列は活躍しています。

▲美幌町に伝わる「足柄奴」

▲東京タワーと大名行列

▶港区芝大門と大名行列